

レゾリュート・ドラゴン25（不屈の龍） 矢臼別・計根別へのオスプレイの飛来反対！



7月9日から8月11日にかけて米空軍が主導し、日本・韓国・オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・イギリスの6カ国による大規模演習「レゾリュート・フォース・パシフィック」に参加してきた政府・防衛省は、連動して自衛隊と米軍との日米共同訓練「レゾリュート・ドラゴン25」を9月11日から25日にかけて全国各地の自衛隊施設で強行しようとしています。

北海道における訓練は6カ所の自衛隊施設で行い、陸上自衛隊約4600人、米海兵隊約250人が参加する大規模訓練です。米軍機オスプレイを使用する予定であり、丘珠駐屯地、北海道大演習場、計根別場外離着陸場、そして矢臼別演習場の計4カ所を1日で飛来させるとしています。

オスプレイは、墜落事故を繰り返してきた欠陥機であり、日本国内では2023年11月に米軍が屋久島沖に墜落させ搭乗員8人全員を死亡させる大事故を起こしています。自衛隊機も昨年10月、与那国島で損傷事故を起こしました。オスプレイを北海道に飛来させるのはいったい何故なのか。5月、中国軍の空母「遼寧」（りょうねい）が尖閣諸島の海域で艦載機の発着訓練を実施し、これに対して海自の幹部は「台湾有事を見据えた訓練の可能性がある」と警戒し、陸自の幹部は、「与那国島などが戦闘に巻き込まれる恐れがある。部隊を早期展開する必要がある」と説明しています。つまり、中国軍を仮想敵と位置付け、九州、沖縄の防衛力を強化する「南西シフト」を北海道において訓練するという事ではないでしょうか。絶対に許してはなりません！

上富良野への「スタンド・オフ・ミサイル」の 配備反対！



2022年12月、岸田政権は安保三文書を閣議決定し、「敵基地攻撃能力（反撃能力）」の保有を打ち出しました。防衛省はこれを実現するために上富良野に「スタンド・オフ・ミサイル」（長射程巡航ミサイル）の配備を計画し、弾薬庫の設置も進めています。射程を自衛隊初の1,000キロ規模まで伸ばし、相手国領域内の軍事拠点を直接たたくことができる体制をつくらうとしているのです。これは、軍事行動を活発化させている中国やロシアを牽制しようとするものであり、これまで政府がまがりなりにも掲げてきた「専守防衛」の原則を完全に投げ捨てるものです。

攻撃性の高い長射程ミサイルは保有するだけで地域の緊張を高めることとなり、有事の際、ミサイルがある場所は真っ先に攻撃対象になります。北海道が“戦場”になる可能性があるということです。これは防衛ではなく挑発であり、国民を守るところか危険にさらす愚策です。しかも、配備に関する地域住民への説明は不十分であり、政府・防衛省は住民の合意形成のプロセスさえも無視しています。民主主義の根幹である「市民の声」が、軍事の論理によって踏みじられていくことは断じて容認できません！ 反対の声を大きくあげていきましょう！

